

赤潮情報交換・赤潮予察調査事業

東北沿岸における赤潮特殊プランクトン予察調査

——陸奥湾海域——

(要 約)

植木 龍夫・尾坂 康・仲村 俊毅・直江 春三・秋山由美子[※]

陸奥湾における貝毒の発生原因と機構を解明する事を目的として、環境条件の調査、プランクトンの調査ならびに脂溶性貝毒の調査を実施した。詳細については、脚註の資料に報告済みであるのでこれを参照されたい。

1 調査項目及び調査方法

- 1 環境条件の調査 調査地点……湾内7地点
気 象……天気、雲量、風向、風力、気温
海 象……0、5、10、20、30m、底層(底より2m)の水温、塩分他に透明度、水色、COD、DO
- 2 プランクトンの調査 各層より海水1ℓを採水し、渦鞭毛藻類の個体数を計数した。
- 3 脂溶性貝毒の調査 毒力測定に供した検体数は、青森県衛生研究所で115、東北大学農学部に依頼した分は70で合計185に及んだ。

2 調査結果

1 毒化時期と毒力について

垂下ホタテガイの毒化のピークは7月初旬～中旬にみられ、毒力の最高値は7.1MU/g(川内)、8.3MU/g(野辺地)であった。ムラサキガイは、垂下ホタテガイに比べて、毒化が幾分早期に現われる傾向があった。地まきホタテガイは、毒力が殆ど検出されなかったが検体数が不十分なため更に調査検討を要するものと思われた。

2 毒化時期の水温等について

毒が初めて検出された5月下旬の水温は12℃を若干上廻る程度であった。ムラサキガイの毒化は、これより早く始まっていたことが推定され、毒化の開始を予測する警戒水温は、これより低い所に置くのが適当と考えられた。毒化のピークは、6～7月頃で、津軽暖流水の湾内流入が一段と強くなる時期に当たっていた。

3 毒化時期のプランクトンについて

毒化時期に多くみられた渦鞭毛藻類として、*Prorocentrum balticum*、*Dinophysis fortii* および *Gymnodinium* - 1 などがあげられた。

詳細は「東北沿岸における赤潮特殊プランクトン予察調査昭和53年度調査報告 昭和54年5月東北区水産研究所」参照

※ 青森県衛生研究所